

西日本学生女子準V 創部57年目の初女子選手

ユイ 全日本女子学生 3位

岡本唯衣



第14回西日本学生女子WL選手権大会
7月3日～5日 はびきのコロセラム

出身の徳島県から今年度オリンピック育成選手に選ばれた岡本は、5月、ロンドンオリンピック銀メダリストの三宅宏実選手と一緒に練習する機会に恵まれた。階級こそ違いますが「自分にはない学ぶべき点がたくさんある。技術面も教わりたい。三宅選手に追いつきたい」(岡本)と刺激を受けた。

そして、同月に行われた全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会の前に、三宅選手から「一緒に頑張ろう」と激励された岡本は、女子58kg級で3位に入賞した。しかし、「自己ベストが出せ

れば優勝を狙えた」(岡本)と悔しさを隠さなかった。また、「高校時代より成績が悪い。自己ベストはスナッチ72kg、クリーン&ジャーク94kg。この記録を伸ばすまで、1位を獲得までは言えない」(岡本)と気を引き締めた。

自己ベストの記録更新を目指した岡本は、7月の西日本学生女子ウエイトリフティング選手権大会で、岡本にはもう一つの目標があった。それは、高校時代からのライバル、金沢学院大学の新垣選手に勝つことだった。

同階級、同学年で互いに意識する両者。岡本がスナッチで手堅く71kgを差し上げるも、スナッチを終えた時点で1位は新垣選手となった。両者の差は6kg。続くクリーン&ジャークで岡本は88kgに挑戦。1本目を失敗してしまっただが、2本目は成功した。一方、新垣選手はクリーン&ジャーク3本目で91kgに成功した。対して、岡本は逆転の可能性に賭け、6kg増の97kgに挑戦したが、壁は厚かった。敗れた岡本は準

備万端で自信もあったが、「悔しさと情けなさを押し殺し、「次こそ優勝! 打倒、新垣選手!」と心に誓った。

また、同日に男子の西日本学生ウエイトリフティング選手権大会が行われ、男子団体戦で大商大は1部4位に終わった。島幸雄(公営3年・板野高)が56kg級を制し、77kg級では土本貴大(経営2年・土岐商業高)が準優勝と健闘するも、関西大学に惜しくも、ポイント差で敗れ、表彰台には届かなかった。次の男子団体戦は11月の全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会。大商大は前年度に1部昇格できなかった。主務・岡田洗太郎(経営4年・四日市工業高)は「全員がやることをやり、成功率を上げて全日本インカレで1部昇格を果たすことへの意気込みを語った。

文/高本菜樹紗 (経営3年・大阪ビジネスフロンティア高)



第27回全日本女子学生WL選手権大会
5月8日～10日 はびきのコロセラム

ウエイトリフティング部 大商大ウエイトリフティング部創部以来、初めての女子選手が誕生した。素敵な笑顔と競技中の真剣な表情が印象的な岡本唯衣(公営1年・板野高)だ。表彰台の常連だが、その真ん中に立つまでは、本人は納得していない。そして、目指すはオリンピック。常に高く目標を掲げ、ひた向きに夢を追い掛ける「ユイ」選手を応援せざるはられない!

「第61回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会」	男子56kg級 7位	守安 暁紀(公営2年・倉敷工業高)
	男子77kg級 5位	土本 貴大(経営2年・土岐商業高)
	男子105kg級 7位	高村 奈央稀(経済4年・鎮西高)
「第27回全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会」	女子58kg級 3位	岡本 唯衣(公営1年・板野高)
「第31回関西学生選抜ウエイトリフティング選手権大会」	56kg級 優勝	守安 暁紀(公営2年・倉敷工業高)
	62kg級 優勝	今川 祐示(公営4年・紀北工業高)
	62kg級 準優勝	岡田 樹(公営1年・徳島科学技術高)
	69kg級 準優勝	安井 悟(経済2年・大商大堺高)
	77kg級 3位	北田 翔平(経済2年・板野高)
	85kg級 3位	須藤 匠海(公営1年・海洋高)
	105kg級 準優勝	高村 奈央稀(経済4年・鎮西高)
「第29回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会」	女子58kg級 5位	岡本 唯衣(公営1年・板野高)
「第54回西日本学生ウエイトリフティング選手権大会」	男子団体1部 4位	
	男子56kg級 優勝	島 幸雄(公営3年・板野高)
	男子56kg級 3位	守安 暁紀(公営2年・倉敷工業高)
	男子77kg級 準優勝	土本 貴大(経営2年・土岐商業高)
	男子77kg級 3位	北田 翔平(経済2年・板野高)
「第14回西日本学生女子ウエイトリフティング選手権大会」	女子58kg級 準優勝	岡本 唯衣(公営1年・板野高)

V64

連盟最多の

栄冠

MVP 越智



阪神六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦
3月7日～4月30日 住之江公園野球場

「阪神六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦」	優勝(3季ぶり64回目)
最優秀選手	越智 俊貴(商3年・西条高)
最多勝利投手	越智 俊貴(商3年・西条高)
ベストナイン(投手)	越智 俊貴(商3年・西条高)
ベストナイン(二塁手)	森 太一(商3年・京都国際高)
ベストナイン(外野手)	竹原 魁人(経営3年・岡山東商業高)
本塁打賞	森 太一(商3年・京都国際高)
「第67回関西地区大学準硬式野球選手権大会」	1回戦敗退
「関西地区大学準硬式野球トーナメント大会」	二次トーナメント 1回戦敗退



準硬式野球部 阪神六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦、大商大は3季ぶりの、そして連盟最多となる64回目の優勝を達成した。

前年度は春、秋ともに準優勝に泣き、「今度こそ優勝するためにキャンプで一からチームワークを見直した」と主将の福家雅隆(公営4年・法隆寺国際高)。大商大はリーグ前半戦を3つのワールド勝ちを含む5勝1分と無敗で折り返す。迎えた最終戦、序盤から主導権を握った大商大が快勝し、(経営2年・明石南高)

暫定2位の大阪教育大学の結果を待たず、優勝を決めた。

その後、全日本選手権出場が懸かる関西地区予選では力及ばず敗れ、全国の舞台には届かなかった。これで引退する福家は「春季リーグ戦は無事優勝できたが、全国で戦えなければ優勝した意味がない。後輩には勝つだけではなく、雰囲気よく戦い抜く自分たちの野球をしてほしい」とエールを送った。先輩の背中を追い掛けてきた後輩たちの次なる飛躍に期待したい。

文/大村直之 (経営2年・明石南高)

SHODAI SPORTS

大阪商業大学 学生生活課
課外活動支援室(スポーツセンター)

発行編集 印刷 日本ビジネスアート株式会社

我楽多

初めて商大スポーツに関わり、一面を任せました。何をすればいいのか全く分からないまま制作が進んでいきました。がなんとか無事にできました。今回分かったことは、事前準備の大切さと、自分だけでやらずに周りの意見をもっと聞き、その意見を活用することが大事なこと。次号では今号の反省点を生かして、より読み応えのある商大スポーツを作っていきます。(森山)

▼今号は、年生部員の活躍が大きく、広報部長として、ご安心感がありました。中面では広報部員を紹介しましたが、また新たに4人の1年生部員も誕生したので、部内でもいよいよ連携を取ってチームプレーを発揮していきたく、1年生には2年生に負けないパワーを見せてほしいです。これからの皆さんのクラブの応援と取材をしていきますので、見掛けたときは声を掛けてください。(高本)

▼現体育会本部委員長で、前広報部長です。今号で商大スポーツを書くのが5回目になりました。後輩6人の記事がとてもいい刺激になりました。硬式野球部をはじめ多くのクラブが素晴らしい結果を残してくれたので、自分たちも楽しんで書くことができました。商大スポーツがすべてのクラブ生の原動力になればいいと思います。そして、次号ではさらに素晴らしい結果を伝えられたらと思います。(江見)

※文中人名後の()内は、所属学科学年・出身高校